
刃の下に

鬼神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

刃の下に

【Nコード】

N0807F

【作者名】

鬼神

【あらすじ】

死見館に招待された10人の高校生たちが、次々と殺されていき、兄の付き添いとして来ていた桜庭翔大が殺人劇に挑む。

FILE0：眩き（前書き）

本作が初の小説です。誤字・脱字・意味不明な部分が出てくるかもしれないが温かい目で読んでくれれば幸いです。

FILE0：眩き

FILE0：眩き

砂浜の波打ち際に独り、人が立っている。そいつは言った。

「復讐してやる」と。

そいつは続けた。

「あいつらに。朱璃^{あかり}を見殺しにしたあいつらに。あの館で……

そいつは見つめた。海に浮かぶ一点の島を。“あの館”が建つ島を。そいつは当てもなく彷徨った。ただ、「復讐する」と眩きながら……

気が付くとそいつは砂浜から離れ、闇に包まれた住宅街に立っていた。

1つの家を見つめて小さく眩いた。しかしその眩きは迫力に満ちていた。

「秀樹、お前だけは許さない。大切なものを亡くす哀しみを味わわせてから必ず……殺す」

そいつは今度はしっかりと足取りで住宅街を離れた。

計画が始まった

FILE 1：招待状

FILE 1：招待状

さくらばじゅんた
桜庭翔大は何か強い衝撃が来たことによつて目を覚ました。

「んっ！何すんだよ！」

起きて自分の上を見ると、たつぷり中身の詰まっていそうな旅行用のバッグが置いてあった。

衝撃の正体はこれのようだ。そしてバッグを投げたのは我が憎き兄、なおき
直希だ。

「今から出かけるぞ。お前の分まで荷造りしといたんだから感謝しろよ！」

「はっ？出かける？そんなの聞いてねえよ。」

時計を見たらまだAM4：00である。

「うるさい！さつさと着替えろ。」

「はあ。」

こうなつたら兄は聞く耳を持たない。

「……そういえば父さん、母さんは？」

「俺たちとは別の旅行だ。しかも10泊11日。」

なんと身勝手な両親だ。いくらなんでも息子に何も言わず旅行に行くか？

「ほれっ、さつさと着替えろ。」

「ういゝつす。」

「そついえば兄貴、どこ行くんだ？」

着替え終わつて今は移動中。車の中である。

むいきにしま
「無生人島の死見館だ。」

「生きる人のいない島の死を見る館か。グロいな。何でそんな所行

くんだよ?」

「招待状が来たんだ。高校の小説研究会に。しかも名前指定で、10枚。」

そついうと兄貴は招待状を見せてくれた。封筒には“小説研究会 桜庭直希様へ”と書かれている。

招待状

桜庭 直希様へ

この度は突然こんな招待状をお送り、申し訳ございません。

あなたは覚えておいででしょうか? 2年前のあの事を。覚えていないなら残念です。

あなたは彼女のことを忘れているのだから。

私はあなたを許さない。絶対に。朱璃あかりの敵は私が討つ。

短い文でそう書いてあった。

「ねえ、この朱璃って誰？」

「丹波朱璃は小説研究会の元部長だ。」

「元？」

「ああ。亡くなったんだ。部室でな。首を吊っての窒息死だった。」

「自殺ってこと？」

「多分な。だけど、あれは俺たちが殺したようなもんなんだ……
……。」

それっきり兄貴は黙りこくってしまった。見ると運転はしているものの、顔色は悪く若干下を向いている。俺はそれ以上は聞かないことにした。

沈黙が続き数十分。兄貴がようやく口を開いた。

「着いたぞ。」

そこは港だった。兄貴は地図のような紙を見ながら、一つの船に向かって、歩いていく。

「兄貴、無生人島に行ったことあんの？」

「ああ……一度な……。」

「まあ、過去の話は終わりにして行こうか。名前と違って、結構快適だぞ。死見館は。」

そうして俺たちは出発した。

殺人劇の幕が上がった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0807f/>

刃の下に

2010年10月28日03時05分発行